

情報解禁日時【2021年9月25日(土) 22:00(JST)厳守】

This information must NOT be released before 10pm (JST), September 25.

＜特報映像&キービジュアル&メインスタッフ解禁/ご紹介のお願い＞

スタジオコロリド 長編アニメーション映画第3弾  
『**雨を告げる漂流団地**』

**2022年**  
**Netflix 全世界独占配信**  
**日本全国ロードショー 決定！**

**特報映像&キービジュアル一挙初解禁！！**

＜**第一報情報解禁/ニュースご紹介のお願い**＞

2018年に初の長編映画『ペンギン・ハイウェイ』で第42回日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞、ファンタジア国際映画祭 今敏賞(ベストアニメーション賞)を受賞し、2020年長編映画第2弾『泣きたい私は猫をかぶる』はNetflixにて全世界独占配信され、世界30カ国以上で再生回数の多い映画ランキングTOP10に入るなど、全世界からの賞賛を浴びたアニメーションスタジオ「スタジオコロリド」。

その待望の新作長編アニメーション映画第3弾は、『雨を告げる漂流団地』。Netflix映画として制作されることが、公式スペシャルイベント「TUDUM: A NETFLIX GLOBAL FAN EVENT」にて堂々の初解禁！

2022年Netflixにて全世界独占配信&日本全国ロードショーが決定しました！

**石田祐康監督×スタジオコロリドが手掛ける**

**夏の終わりの冒険ファンタジー『雨を告げる漂流団地』**

小学6年生の航祐(こうすけ)と夏芽(なつめ)は、団地で育った幼馴染。夏休みのある日取り壊しの決まった団地で遊んでいると、不思議な現象に巻き込まれてしまう。気づくとそこは、あたり一面の大海原で—— 航祐たちは元の世界に戻れるのか。ひと夏の別れの旅がはじまる。

監督を務めるのは、33歳の若さで長編映画二作目となる**石田祐康**。『陽なたのアオシグレ』で第17回文化庁メディア芸術祭にてアニメーション部門の審査委員会推薦作品に選出、『ペンギン・ハイウェイ』では29歳という若さで異例の長編監督デビューを果たし、第42回日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞、ファンタジア国際映画祭 今敏賞(ベストアニメーション賞)を受賞した、アニメーション界の次代を担うクリエイター。瑞々しく浮遊感のあるフィルムで、マジックリアリズムの世界観を鮮やかに描き出す。

また、キャラクターデザイン・キャラクターデザイン補佐は、『ペンギン・ハイウェイ』『泣きたい私は猫をかぶる』でも活躍した**永江彰浩**と**加藤ふみ**が再びタッグを組む。



studio   
**Colorido**

**情報解禁日時【2021年9月25日(土)22:00(JST)厳守】**

**This information must NOT be released before 10pm (JST), September 25.**

**スタジオコロロ過去作から待望の新作へとステップアップする特報映像&  
少年少女の冒険を予期させる躍動感溢れるキービジュアルが初公開！**

作品公開情報と合わせて、本作の特報映像とキービジュアルが初解禁。大海原を漂流する団地、そこへ迷い込んでしまった航祐たち。団地は、どこへ向かうのか…。少年少女のひと夏の冒険を描いた長編アニメーション映画『雨を告げる漂流団地』。公開を楽しみにお待ちください。



**映画『雨を告げる漂流団地』特報映像、キービジュアル解禁 概要**

■解禁日時:9月25日(土)22:00(JST)解禁 ■解禁素材:特報映像、キービジュアル

■特報映像 YouTube : <https://youtu.be/PI00zr1TMWw>

**監督:石田祐康、キャラクターデザイン:永江彰浩、キャラクターデザイン補佐:加藤ふみ から  
コメントが到着！**

**■<監督:石田祐康 コメント>**

団地に惹かれました。明快な建物の形。広々とした緑豊かな敷地。この国が焼け野原から立ち上がる象徴としてあった姿と、裏腹に疎まれ壊されてきた生い立ち。それでも、装いを更新し生き続ける姿。それもこの場所を望み、暮らし、憩う、新しい世代のために。

戦後の日本人の原風景となって、今もお縁の下で人を支えようと頑張る存在。健気だ…。

この映画に登場するある少女は団地をかけがえのない場所と思っています。しかし周りは理解できません。オンボロ団地だのオバケ団地だの言いたい放題です。取り壊しさえ始まってしまう。少女の思いなど、関係なく。

きっと誰にでもある大切な場所は往々にして他人にとっては他人事。でもだからこそ”自分だけの特別な体験”がそこにあったはず。そういう個人的な体験を他人に伝えるのは難しい事ですが、そこから飛び出てくる熱量を前にすると、せめて自分だけでも信じてやれないものかとなって…。

この映画はそういうことを信じた結果、タイトルにしてしまうほど団地に思いを寄せた作品となりました。こういう類のアニメ映画としては恐らく変わり者です。自分にとっても一つの挑戦となります。分かりやすく学校にするなどの意見もありました。苦しんで、悩んで、それでも信じるままに！逆に皆で一緒になって知恵を絞りつつ！…団地を船出させることになりました。

僕からしたらこんな“ちっぽけな”個人の思いを、多くの方の力を借りて大きく作らせてもらっているんです。その申し訳なさと同時に有り難いことと考え、身が引き締まる思いで取り組んでいます。…巻き込んでしまったからには…良い形にしたい！頑張りたいです。

2022年、この団地が漂流する果てに少年と少女は何を見るのか。ご期待ください。

**■<キャラクターデザイン:永江彰浩 コメント>**

本作は石田監督の奇想天外なアイデアを基に、夏にぴったりの作品になっております。タイトルにもありますように団地という舞台には特にこだわりを持って設計しておりますので、この建築が持つ表情の魅力を感じていただけたら幸いです。

そして、何よりその場所にまつわるキャラクターたちの思いをストレートに受け取っていただけるよう努めております。ぜひご覧くださいませ。

**■<キャラクターデザイン補佐:加藤ふみ コメント>**

今までのコロロ作品の良さを引き継ぎつつ、また新しい地平を目指して鋭意制作中です。同じ学校に通いながらも全くバラバラなタイプの子供たちが、漂流生活を通してどんな成長を遂げるのか注目していただきたいです。

今、そしてこれから12歳になる人もそしてかつて12歳だった人にも、あったかもしれない一夏の物語として楽しんでいただければ嬉しいです！

## <アニメーション映画『雨を告げる漂流団地』作品概要>

### ■【イントロダクション】

スタジオコロロドが贈る長編アニメーション映画第3弾『雨を告げる漂流団地』。  
夏の終わりの冒険ファンタジー

2018年初の長編映画『ペンギン・ハイウェイ』を手掛けた「スタジオコロロド」は、2020年Netflixにて全世界独占配信された『泣きたい私は猫をかぶる』において世界30カ国以上で再生回数の多い映画ランキングTOP10に入るなど全世界からの賞賛を浴びた。スタジオコロロド待望の新作は、長編アニメーション映画第3弾『雨を告げる漂流団地』。

小学6年生の幼馴染、航祐と夏芽、その仲間たちが取り壊し前の団地に入り込んだことから始まるひと夏の冒険物語。少年少女を乗せた団地が大海原を漂流する。

現実からファンタジー世界に観客を連れていく映像手法と、親しみやすいビジュアルで、スタジオコロロドらしい瑞々しさと勢いのある映画となっている。

監督を務めるのは、33歳の若さで長編映画二作目となる石田祐康。『陽なたのアオシグレ』(2013)で第17回文化庁メディア芸術祭にてアニメーション部門の審査委員会推薦作品に選出、『ペンギン・ハイウェイ』(2018)では29歳という若さで異例の長編監督デビューを果たし、第42回日本アカデミー賞優秀アニメーション作品賞、ファンタジア国際映画祭 今敏賞(ベストアニメーション賞)を受賞した、アニメーション界の次代を担うクリエイター。

### ■【ストーリー】

幼なじみの航祐と夏芽。  
小学6年生になった二人は最近お互いを避け、ギクシャクしている様子。

夏休みのある日、二人の姿は取り壊しの決まった団地にあった。  
その団地は、二人がかつて育った思い出の場所。  
航祐たちが団地で遊んでいると、突然不思議な現象に巻き込まれる。  
気づくとそこは、あたり一面の大海原。  
航祐たちを乗せ、団地は謎の海を漂流する。  
果たして元の世界へ戻れるのか？

## ひと夏の別れの旅がはじまるー

### ■【クレジット】

監督: 石田祐康  
脚本: 森ハヤシ / 石田祐康 / 坂本美南香  
キャラクターデザイン: 永江彰浩  
キャラクターデザイン補佐: 加藤ふみ  
音楽: 阿部海太郎  
企画プロデュース: 山本幸治  
制作: スタジオコロロド  
企画: ツインエンジン  
©コロロド・ツインエンジンパートナーズ

- 公式サイト: <https://www.hyoryu-danchi.com/>
- Twitter: @Hyoryu\_Danchi ([https://twitter.com/Hyoryu\\_Danchi](https://twitter.com/Hyoryu_Danchi))  
#漂流団地 #スタジオコロロド

※本リリースのビジュアルを掲載される際は、下記権利表記の記載をお願い致します。

©コロロド・ツインエンジンパートナーズ



### <本件に関するお問い合わせ>

株式会社ツインエンジン 担当: 橋本・岩田

取材窓口: 三井

e-mail: [hyoryu-danchi@twinengine.jp](mailto:hyoryu-danchi@twinengine.jp)

携帯: 070-7516-1986